

平成 27 年度国家総合職人間科学 専門択一問題正答解説

心理系, 認知心理学, 臨床心理学, 教育心理学, 社会心理学の解説です。

※問題はタイトル部分のみです。問題の詳細は各自の手元にある問題冊子を参照して下さい。

心理系

【No. 1】 A. H. マズローは、人間の行動を動機づける欲求を分類するとともに、それらの欲求は階層構造にあると考え、最も低次の欲求を「生理的欲求(生理的体系としての生命維持に関する欲求)」、最も高次の欲求を「自己実現の欲求(自己が成長する機会を求めたり、創造的・生産的な能力を伸ばそうとする欲求)」とした。下図は、マズローの考えを図示したものであるが、図中ア、イ、ウに入る欲求 A、B、C の組合せとして最も妥当なのはどれか。

正答：4

解説： おなじみマズローの欲求階層説。アが「承認と自尊」、イが「所属と愛情」、ウが「安全と安定」で決まりである。解説は不要であろう。記号の順番や組合せを間違えないように。

【No. 5】 次は、調査票の質問文を作成するに当たって注意すべき事項を挙げたものであるが、ダブルバーレル質問の例とその問題点に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答：3

解説： 調査票作成時のワーディングについての問題。本問のダブルバーレルのほか、あいまい表現、ステレオタイプ表現、誘導的質問、キャリアオーバー、イエス・テンデンシー等がしばしば問題となる。

1. 誘導的質問の例である。
2. イエス・テンデンシーの例である。「あなたは A だと思いますか」と聞かれたときの方が「あなたは A ではないと思いますか」と聞かれたときよりも、A に対して賛成する度合いが増えるという。つまり回答者は質問文に対して潜在的に「はい」と答えやすい傾向がある。これをイエス・テンデンシーという。
3. 正しい。ダブルバーレルとは、質問文に 2 つ以上の論点が含まれることをいう。
4. キャリアオーバーの例である。キャリアオーバーとは、前問の回答によって後問の回答が影響を受けることである。
5. あいまい表現の例である。こうしたあいまい表現のほか、難解な専門用語を質問文に使うことも、回答を困難にしたり、データが現実と異なってしまう原因になる。

【No. 6】 ノルアドレナリンに関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答：3

解説： 神経系の問題は苦手という人もいるだろうが、この問題の場合は交感神経系と副交感神経系の基本知識があれば正答を見つけるのは難しくない。

1. ノルアドレナリンは末梢神経系では、交感神経系の興奮により放出される。
2. ノルアドレナリンが直接血中に分泌されるのは副腎髄質から出る場合。脳内ではニューロンの接続によって機能する。ノルアドレナリン作動性ニューロンは中枢神経系では、覚醒・睡眠やストレスに関連する働きや、注意・記憶、学習にも関連する働きをする。
3. 正しい。講義でも紹介したとおりの基本知識である。
4. ドーパミンはノルアドレナリンの前駆物質である(ノルアドレナリンはドーパミンから酵素反応によって合成される)。
5. 副腎皮質刺激ホルモンは、松果体ではなく脳下垂体から放出される。

【No. 7】 扁桃体 (amygdala) に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答： 1

解説： 扁桃体はアーモンド形の神経核で、側頭葉内側部、大脳辺縁系の尾側終端に位置する。特に恐怖情動の発現にかかわることでよく知られる。英語がわからなくても、扁桃体がどのようなものか知っていれば、消去法で正答が選べるのではないだろうか。

1. 正しい。「扁桃体はアーモンド形の神経核で、側頭葉内側部にあり、情動やある種の学習と記憶にかかわると考えられている」
2. 誤り。「扁桃体は視床核の一つであり、網膜から第一次視覚野へ情報を伝える」。外側膝状体のことか??
3. 誤り。「扁桃体は水溶液と硝子体液の間にある透明な構造物で、耳が異なる音に焦点を当てることを可能にする」。聴覚器の膜迷路と骨迷路のことか??
4. 誤り。「扁桃体は嗅覚皮質に隣接する大脳皮質の部位の一つである。ヒトにおいては扁桃体は後頭葉にあり、学習と記憶にかかわる」。??
5. 誤り。「扁桃体は尾状核と被殻をまとめて呼んだもので、身体の不随意的な動作の開始にかかわる」。尾状核と被殻をまとめて背側線条体という。運動機能に関係する。

【No. 8】 奥行き知覚に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答： 5

解説： 基本的な知識で解ける問題。特にエイムズの部屋を知っていれば容易だろう。

1. エンメルトの法則とは、網膜像(残像)が一定ならば、観察される対象(残像)の大きさは距離に比例する、というものである。
2. 水晶体の調節による奥行き関係の推定は、せいぜい 2m を超えない範囲と言われている。
3. 運動視差は片眼でも生じる。また輻輳は両眼による。
4. ランダムドット・ステレオグラムは、両眼視差以外の奥行き知覚の手がかりが一切存在しないステレオグラムである。そして奥行き知覚の成立機序について、「両眼視差情報に基づいて奥行きが計算された後に形が定義され、抽出される」という順番であることを示す実証例とされている。
5. 正しい。「エイムズの部屋」は、大きさの恒常性が成立しない錯覚的な現象のデモンストレーション

続きは受講生限定となります
まだ届いてない方は担任まで